

中学 3 年 国語科 教材別テスト⑦「夏草—『おくの細道』から」

教材別リメイク版 中学 3 年 国語 / 歴史的仮名遣い・古典の知識・読解

3 年 組 番 氏名 _____

【注意事項】

- 問題は「一」から「四」（P. 1～P. 5）までです。解答はP. 6～P. 9の解答用紙に書きなさい。
- 大問二・三・四は、教科書『国語3』（光村図書）の「夏草」を開いて解答しなさい。
- 設問の中に引用した古文は、歴史的仮名遣いのままで示してあります。
- 解答は、解答用紙の適切な欄に、ていねいに楷書で書きましょう。
- 句読点やかぎかっこなどの符号も一字と数えます。

知識・技能 （50点）

次の——線部について、漢字はその読みをひらがなに直し、ひらがなは漢字に

一

直して書きなさい。ただし、送りがなが必要な場合（⑦⑬⑭⑯⑳）は、必ず書くこと。

1点×20＝20点

- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 旅程を確かめる。 | ② 俳諧をたしなむ。 |
| ③ 漂泊の思いがつのる。 | ④ かつての栄華。 |
| ⑤ 無常を感じる。 | ⑥ 夢の跡をたずねる。 |
| ⑦ 勢いが衰える。 | ⑧ 奥州の地をめぐる。 |
| ⑨ 古代の遺跡。 | ⑩ 五月雨が降る。 |
| ⑪ 山のとうげを越える。 | ⑫ 宿にしゅくはくする。 |
| ⑬ 美しいふうけい。 | ⑭ 古いせんじょう。 |
| ⑮ へいしが集まる。 | ⑯ 長い道がつづく。 |
| ⑰ 一族がほろびる。 | ⑰ 試合の前にきんちょうする。 |
| ⑱ えいえんに残る。 | ⑱ 寒さにふるえる。 |

歴史的仮名遣いと古語の意味について、次の問いに答えなさい。

18点

(1) ～ (4) 次の――線部を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。 2点×4＝8点

$$2 \text{ 点} \times 4 = 8 \text{ 点}$$

- (1) 「まづ高館にのぼれば」
- (2) 「いづれの年よりか」
- (3) 「行きかふ年もまた旅人なり」
- (4) 「片雲の風にさそはれて」

(5)～(9) 次の古語の意味としてあてはまるものを、それぞれ後から一つ選び、記号で答えなさい。

2点×5=10点

(5) 古人（「古人も多く旅に死せるあり」）

- ア 昔の人。 イ 年老いた人。
ウ 亡くなった人の霊。 エ 古くからの友人。

(6) 田野（「秀衡が跡は田野になりて」）

- ア 広い海辺。 イ 田畑や野原。
ウ 山あいの小道。 エ 人が多く集まる市場。

(7) 義臣 (「さても義臣すぐつてこの城にこもり」)

- ア 主君にそむいた家来。 イ 外国から来た使者。
ウ 忠義をつくす家来。 エ 身分の高い貴族。

(8) 旧跡 (「泰衡らが旧跡は」)

- ア 新しく開かれた土地。 イ 先祖をまつる墓。
ウ 昔、事件や建物があった所。 エ 戦いに勝った者に与えられる土地。

(9) 時のうつるまで（「笠うち敷きて、時のうつるまで涙を落としはべりぬ」）

- ア 時代が移り変わるまで。 イ 季節が変わるまで。
ウ 時計の針が進むまで。 エ 長い時間がたつまで。

三

『おくの細道』についての古典の基礎知識と、俳句の形式について、次の問いに答えなさい。

12点

(1) 『おくの細道』が成立した時代を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア 平安時代 イ 鎌倉時代 ウ 江戸時代の前期 エ 明治時代

(2) 『おくの細道』の文章の種類（ジャンル）を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア 随筆 イ 紀行文（俳諧紀行） ウ 軍記物語 エ 和歌集

(3) この旅に作者と同行した弟子の名前を、漢字で書きなさい。 2点

(4) 芭蕉が確立した俳諧の作風を何というか。次から一つ選び、記号で答えなさい。 2点

ア 蕉風 イ 貞門 ウ 談林 エ 天明調

(5) この旅の出発地を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 1点

ア 京都 イ 江戸（深川） ウ 大阪 エ 平泉

(6) 俳句は、五・七・五の（ ）音からなる。（ ）にあてはまる言葉を漢数字で書きなさい。 1点

(7) 「夏草や兵どもが夢の跡」の切れ字を、一字で書き抜きなさい。 1点

(8) 「五月雨の降り残してや光堂」の季語と、その季節を書きなさい。【完答】 1点

思考・判断・表現 (50点)

四 教科書『国語3』(光村図書)の「夏草」を開いて解答しなさい。

50点

(1) 冒頭の「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」が表している考え方を、次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 月日や年月もまた旅人のようなものであり、とどまることなく過ぎ去っていくという考え方。

イ 月日は人を待ってくれないので、とにかく急いで生きるべきだという考え方。

ウ 旅人は月日のように自由に動けるので、うらやましいという考え方。

エ 月日が過ぎれば、どんな悩みも自然に消えてしまうという考え方。

(2) 冒頭の部分から読み取れる、旅に対する作者の思いを、「～という気持ち。」の形で二十五字以上三十五字以内で書きなさい。 5点

(3) 「三代の栄耀一睡のうちにして」の「三代」とは、だれの三代か。次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 源氏三代 イ 奥州藤原氏(清衡・基衡・秀衡)の三代 ウ 平氏三代 エ 徳川家の三代

(4) 「三代の栄耀一睡のうちにして」とは、どういうことを言っているのか。「～こと。」の形で二十五字以上三十五字以内で書きなさい。 5点

(5) 「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」について、正しく説明したものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 芭蕉が自分で作った漢詩を、そのまま書き入れたものである。

イ 中国の詩人杜甫の漢詩「春望」の一節を踏まえた表現である。

ウ 『論語』の一節を、そのまま引用したものである。

エ 戦に勝つことを表す中国の故事成語である。

(6) (5)のように、すでにある有名な作品の表現を踏まえて書くことには、どのような効果があるか。三十字以上四十字以内で書きなさい。 5点

四 (つづき)

(7) 「まづ高館にのぼれば」の「高館」は、だれにゆかりのある場所か。次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 源頼朝 イ 平清盛 ウ 源義経 エ 徳川家康

(8) 「夏草や兵どもが夢の跡」の句に、作者はどのような感慨をこめているか。「～という感慨。」の形で三十字以上四十字以内で書きなさい。 6点

(9) 「五月雨の降り残してや光堂」の「光堂」とは、何のことか。次から一つ選び、記号で答えなさい。 3点

ア 平泉の毛越寺にある庭園 イ 平泉の中尊寺金色堂
ウ 京都の鹿苑寺金閣 エ 日光の東照宮

(10) 芭蕉の「不易流行」という考え方は、「夏草や兵どもが夢の跡」と「五月雨の降り残してや光堂」の二つの句にどのように表れているか。三十五字以上四十五字以内で書きなさい。 6点

(11) この文章の文体と構成について、あてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。【完答】

3点

- ア 和語だけを用いた、やわらかくくだけた調子の文体で書かれている。
- イ 漢語や対句を多く用いた和漢混交の文体で、格調の高い調子を生み出している。
- ウ 地の文で情景や歴史を語り、その思いを俳句で結ぶ構成になっており、感動が強く印象づけられている。
- エ 俳句だけを並べ、地の文はいっさい用いていない。
- オ 会話文を中心にして、登場人物のやり取りで話を進めている。

(12) この文章にえがかれた「無常」(すべてのものは移り変わり、いつまでも同じではないというものの見方)について、あなたはどのように考えるか。四十字以上五十字以内で書きなさい。 5点

解答用紙① 知識・技能

中学3年 国語科 教材別テスト⑦「夏草—『おくの細道』から」

3年 組 番 氏名 _____

知識・技能 小計

一 漢字 (1点×20)	①		②	
	③		④	
	⑤		⑥	
	⑦		⑧	
	⑨		⑩	
	⑪		⑫	
	⑬		⑭	
	⑮		⑯	
一 (つづき)	⑰		⑱	
	⑲		⑳	

解答用紙①（つづき） 知識・技能

中学 3 年 国語科 教材別テスト⑦「夏草—『おくの細道』から」

3 年	組	番	氏名	
-----	---	---	----	--

二 歴史的仮名遣いと古語の意味 (2点×9=18点)	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)		(8)	
	(9)			

三 古典の知識と俳句の形式 (12点)	(1)		(2)	
	(3)		(4)	
	(5)		(6)	
	(7)		(8) 季語	
	(8) 季節			

※ 二（１）～（４）は、すべてひらがなで書きなさい。三（８）は、季語と季節の両方が合っていて正答です。

解答用紙② 思考・判断・表現

中学3年 国語科 教材別テスト⑦「夏草—『おくの細道』から」

3年 組 番 氏名 _____

思考・判断・表現
小計

合計（100点満点）

四 「夏草—
『おくの細道』
から」の読解
(50点)

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

解答用紙②（つづき） 思考・判断・表現

中学3年 国語科 教材別テスト⑦「夏草—『おくの細道』から」

3年	組	番	氏名	_____
----	---	---	----	-------

四（つづき）	(10)	
	(11)	
	(12)	

※ 記述問題は、解答欄におさまるように、ていねいな字で書きなさい。句読点も一字と数えます。字数は、(2)(4)＝25～35字、(6)(8)＝30～40字、(10)＝35～45字、(12)＝40～50字です。(11)は二つそろって正答です。

